

## 2020 年度活動報告 CJP 授業：表現法 1－2

佐野 真弓（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. クラス概要

本授業は、初級前半（レベル 1 および 2）の学生を対象とする週 1 コマ開講されている選択科目である。2020 年度春学期は、新型コロナの影響で同時双方向型のオンライン授業を実施した。目標は、1) 日本語能力試験 N4 相当の表現（文法・語彙）が理解できるようになること、2) 日本語能力試験 N5 相当の文法を使った文が作れるようになることである。主教材は、『TRY! 日本語能力試験 N5 文法から伸ばす日本語』（アスク出版）および『TRY! 日本語能力試験 N4 文法から伸ばす日本語』（アスク出版）である。

### 2. 授業内容

本授業での N4 相当の表現（文法・語彙）および N5 相当のその学習の流れについて述べる。まず、N4 相当の表現については、授業前に、学生が自身の理解を点検できるように、会話例や例文、解説に目を通し、簡単な確認問題を解くという事前課題を課した。そして、授業では、事前課題をもとに、各表現がどのような場面や状況で、どのようなことを言いたいときに使用されるかの理解を中心に確認した。さらに、一部の表現においては、産出の練習を行った。

次に、N5 相当の表現については、日常的な会話を聞いて、学生に、学習対象の表現が文脈の中でどのように使われているかに気づかせることから始めた。その上で、用法や接続などを確認した。また、学生が知ってはいるが意味や用法の理解があやふやな文法も少なからずあり、それらは適宜復習や練習を行った。

さらに、授業後の課題として、授業で扱った学習項目が練習できる問題を与え、理解と運用の定着を図り、翌週に、復習した後、クイズを実施し、形成的評価を行った。

### 3. 成果と今後の課題

成果は、3 名の受講生全員が本科目の目標を達成できたことだと言える。全員が期末試験で高得点を得ていることから、事前課題への取り組み、授業での質疑や練習、クイズの実施という一連の実践を通して、それぞれが着実に力をつけていたと思われる。

一方で、学生よりさらに多くの文法項目を扱ってほしかったという声も聞かれた。それには、自習できる教材を紹介するなどして、自律的学習の支援を充実させることを検討したい。また、今後オンライン授業でのクイズや期末試験の実施の際には、Microsoft Forms などのツールを利用することで、時間短縮や効率化を図りたい。